



8月園だよりコロナ感染症特集 15

デルタ株猛威 自宅での死亡例相次ぐ

新型コロナウイルス感染拡大が止まらず、強力なインド由来のデルタ株の猛威が列島を覆う。有効策がなく出口が見えない中、自治体の担当者からは、さらなる状況の悪化を危ぶむ声も出始めた。1日の新規感染者数が想定を超える地域が続出。首都圏を中心に入院できず自宅での死亡例も相次ぐ。過去最大の感染の波にのまれ「医療崩壊」の様相を呈している。

訪問診療が中心の「いばらき診療所ひたち」(茨城県日立市)の照沼秀也医師は「保健所を通じても入院の空きがなく、なかなか受けてもらえない」と実情を語る。「まだ感染者が増えるという肌感覚がある」

入院患者を選別

政府は今月、入院する人を絞り込む方針を公表。すぐ使える病床の確保が重要と判断した。「首都圏で入院患者の選別が始まっており、現実的に愛知県の30代男性が8月上合させた」(政府関係者)と見られる。見方もある。東京都は11日、基礎疾患のない30代男性が自宅療養中に死亡したと発表した。政府の対策分科会は12日の提言で「救える命が救えなくなる状況になり始めている」と指摘し、医療体制の逼迫は深刻に なっている。

高齢者2回接種 感染死亡率激減

新型コロナウイルスワクチンを2回接種した65歳以上の高齢者は、未接種の高齢者に比べ、感染後の死亡率が5分の1程度にとどまることが11日、厚生労働省の分析で分かった。厚労省の助言機関の会合で報告さ

れた。

感染者のデータを一元管理する情報システム「HERI-SYS」のデータをもとに、今年6月に感染が判明した高齢者について、ワクチンの接種回数別の死亡者数と死亡率を調べた。死亡率は未接種者が4・31%だったのに対し、1回接種者が3・03%、2回接種者が0・89%だった。変異ウイルス別の死亡率は、インド由来の「デルタ株」が4・5%、英国由来の「アルファ株」が5・6%で、両者に有意な差はなかった。

最大の波 医療崩壊の様相

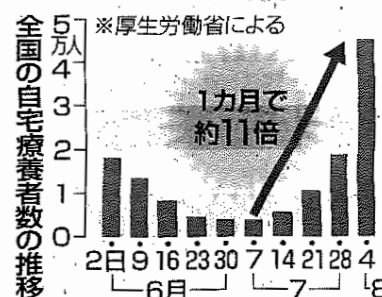
3月1日に倦怠感を覚え、夜には発熱を確認。3日に陽性が確定し、同居の妻にうつさないよう別の部屋で過ごした。4日にホテル療養に移行。症状が出て以降、せき、頭痛など日に日に体調が悪くなり、味覚に異常が出た。にんにくのおいすら分からなくなった。

つらさで眠れず、5日朝に体温が39度を超えた。ホテル療養担当の看護師に「入院させて」と訴え、病院に運び込まれた。急変する恐ろしさを思い知り「デルタ株の出現により、家庭内感染が広がる恐れもある」と指摘した。

想定超す感染者

「酸素投与が必要で入院すべき患者が入院できていない。とにかくベッドがない」。感染者数が連日想定を超える神奈川県担当者は明かす。当初は中等症患者で逼迫したが、その患者が重症化し、今月11日時点の重症病床使用率は91%に達した。

春の第4波で大阪府は医療崩壊に直面。重症者病床が全て埋まり、自宅療養中の死亡が続いた。



R 3 . 8 . 1 7

花園保育園

心臓装置(エクモ「ECMO」)などの高度な治療を伴い、関わる医療従事者の負担は大きいとされています。

全国で新規感染者が数千人規模で増え続けている状況だと、コロナ重症患者の減少は見通せないでしょう。(こ)

感染者連日2万人超す

感染力が強いインド由来のデルタ株が猛威を振るう新型コロナウイルスは14日、国内で新たに感染者2万147人が確認され、2日連続で2万人を超えた。重症者数は前日から43人増えて全国1521人(13日時点)となり、2日連続で過去最多を更新。コロナ流

行第5波の深刻さは刻々と増している。

(30面に関連記事)

都道府県別の感染者数は、東京都5094人、神奈川県2万356人、大阪府1万8288人、埼玉県1万8000人、千葉県1万72人など。報告が最多となったのは茨城、栃木、埼玉、千葉、神奈川、山梨、三重、滋賀、大阪、香川、鹿児島、沖縄の計12府県に上った。死者は千葉5人など計18人となった。

4 (爆発的感染拡大)相当となった。人口10万人当たりの新規感染者数はこの5都府県を含め、計34都府県でステーション4の水準。病床使用率は東京、大阪など17都府県でステーション4相当となる50%を超過。特に滋賀82・2%、沖縄80・4%、神奈川72・5%などは危機的状況だ。使用率が20%以上のステーション3(感染急増)相当も27道県に上り、医療現場は依然厳しい。



米CDC 妊婦の接種推奨

流産リスク「高まることない」

【ワシントン＝船越翔】米疾病対策センター(CDC)は11日、妊婦の新型コロナウイルスワクチン接種を推奨する勧告を出した。これまでの「個人の判断による」との見解を修正した。

CDCは、妊娠から20週以内に米ファイザーからモデルナ製を接種した約2500人のデータを分析した。ワクチンを投与していない妊婦と比べ、流産のリスクに差は見られず、副反応にも違いはなかった。

米紙ニューヨーク・タイムズ(電子版)などによると、米国内でワクチンを1回以上接種した妊婦は、5月時点で23%にとどまっておらず、感染者も相次いでいるという。

CDCのロシェル・ワレンスキー所長は声明で、「我々はすべての妊婦がコロナから身を守るため、ワクチン接種を奨励する」と強調した。

政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会の提言で、「入出の抑制」が求められた百貨店などの商業施設は、相次いで感染対策を強化している。

百貨店 感染対策を強化

運営する阪急阪神百貨店は、これまでに担当者全員を含む約1500人にPCR検査を実施し、濃厚接触者は2週間の自宅待機とした。親会社のエイチ・ツー・オーリテイニングは「感染対策は強化してきた。提言を受け、政府からの要請を注視したい」(広報)としている。

入場規制も検討

伊勢丹新宿本店(東京都新宿区)では5、11日の1週間で従業員67人の感染が確認された。空気清浄機や従業員向け消毒液を増やすなどの対策を取っている。館内の滞留人数が一定数を超えた場合は入場規制を検討する。

「自動で除菌できる機械を導入した。これまで従業員が1日3回、手作業でかき拭いていたが、約5分で40個のかき除菌できる。作業時間が10分の1以下に短縮できるという。」

東京では新型コロナウイルスの重症者が200人台に達し、近く人工呼吸器などの装着が必要と見込まれる重症間際の患者は、8月11日の時点で約460人に達しています。こうした患者の容体が悪化すれば、重症病床の使用率は一気

にアップし、医療体制が逼迫する懸念も出ています。医療専門家は、救命の可能性のある多くの命を失うことにもなりかねないと医療の危機を訴えています。コロナの重症患者は、病床を長期で使用する場合が多く、人工呼吸器や人工